

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年7月31日

事業名	道路構造物定期保守点検事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課			款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	国県補助事業	
政策体系	体系コード	521	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H27	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	平成26年7月、道路法施行規則の改正に伴い道路橋等構造物について、5年に1回の近接目視による定期点検が規定された。これに基づき適切に定期点検を行い、施設の長寿命化を図るための修繕を行い、地域の道路網の安全かつ円滑な交通の確保を図る。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	定期点検の実施により各施設の健全性を分類し、H23年度に策定された長寿命化修繕計画と同様に従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防的な修繕及び計画的な架け替えへと円滑な道路施設の長寿命化を策定していく。
-------------------------	---

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
道路橋定期点検数÷支間2m以上の道路橋数	箇所	19.0	19.8	20.0	20.0	20.0
横断歩道橋の点検数÷横断歩道橋数	%	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1
橋梁長寿命化計画の進捗率	%		7.7	11.5	23.1	34.6

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・橋梁点検業務委託 124橋
--------------------------	----------------

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
道路橋定期点検数	箇所	124	119	123
横断歩道橋点検数	箇所	0	1	1
事業費計	千円	32,538	27,071	23,683
一般財源	千円	14,642	12,221	10,769
特定財源（国・県・他）	千円	17,896	14,850	12,914
（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	市道橋604橋について、点検し判定Ⅲとなった橋について、補修工事を行い、長寿命化を図る。 令和5年度は、2橋の補修工事を行い、橋梁長寿命化計画の進捗率を上げることができた。
------------------	---

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
道路橋定期点検数÷支間2m以上の道路橋数	箇所	20.6	19.8	20.4	値が大きいほど良い	効果が上がった
横断歩道橋の点検数÷横断歩道橋数	%	0.0	50.0	50.0	値が大きいほど良い	効果は変わらない
一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.4	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない
橋梁長寿命化計画の進捗率	%		3.8	15.4	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用は下がった
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 2指標
	効果は変わらない指標数 2指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※10万円以上の増減により判断

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった	○		
費用の増減無し			
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

約600橋を5年に1回の点検を実施することから、年間約120橋の点検を目標とした場合、概ね点検が実施されていることから、達成できた。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
点検業務に要する費用については、国費が必要であることから財源確保に努める。

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年7月31日

事業名	認定外道路維持補修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課			款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	521	名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	都市計画法、地方分権一括法、建築基準法、佐野市公共物管理条例	事業期間	開始年度	H17	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	国から譲与を受けた法定外公共物（赤道等）と、開発行為等により帰属を受けた道路の破損箇所の補修を実施し、交通の安全を確保する。 認定外道路延長 1万km以上
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	認定外道路の危険箇所の維持補修を行い、危険箇所に起因する事故の発生を未然に防止する。
-------------------------	--

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	-	-	-	-	-
一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	道路パトロールで発見した危険箇所と利用者からの苦情ならびに修繕依頼を受けた危険箇所等の維持・修繕 ・老朽化し交通に危険がある認定外道路の緊急的な補修及び小破修繕 ・老朽化し交通に危険がある認定外道路の舗装の打ち替え工事 ・老朽化し交通に危険がある認定外道路の側溝の修繕工事
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
維持・修繕を実施した箇所数	箇所	83	110	107
舗装修繕工事の実施延長	百m	1	2	1
側溝修繕工事の実施延長	百m	0.3	0.0	0.1
事業費計	千円	11,183	8,082	17,475
一般財源	千円	11,183	8,082	17,475
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保することを目的としており、利用者からの依頼やパトロールで発見した危険箇所はおおむね対応することができた。
------------------	--

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	120	166	145	値が小さいほど良い	効果が上がった
一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.4	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	1指標
	1指標
	0指標
指標全体	効果が上がった

※10万円以上の増減により判断

効果			
費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			
費用の増減無し			
費用が増加した	○		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕を処理し、打ち換え等の修繕工事を実施したことにより達成できた。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕を速やかに処理するとともに、舗装打ち換え等の修繕工事を推進する。

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年6月28日

事業名	市道道路改良事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	5-⑦	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	道路河川課			款	8	新規or継続	継続事業
	係	道路建設係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	521	名称	根拠法令、条例等	目	3	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	事業期間	開始年度	H17	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度		事業分類	施設等整備事業
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	市道の改良、側溝、舗装の整備を実施することにより、生活基盤及び生活環境の向上を図る。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	・改良要望箇所の整備 ・側溝要望箇所の整備 ・舗装要望箇所の整備	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		改良工事完了箇所	箇所	2	4	1	2	3
		側溝工事完了箇所	箇所	2	0	2	0	2
		舗装工事完了箇所	箇所			1	1	1

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	道路改良工事 2件 L=177.0m 道路側溝工事 3件 L=168.3m 道路舗装工事 6件 L=965.0m	活動指標	単位	R3	R4	R5
		改良工事延長	m	615.0	439.5	177.0
		側溝工事延長	m	482.0	0.0	168.3
		舗装工事延長	m	0.0	799.5	965.0
		事業費計	千円	130,888	103,349	127,639
		一般財源	千円	125,405	23,349	3,389
		特定財源（国・県・他）	千円	5,483	80,000	124,250
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	要望箇所の工事が完了したことで、利便性の向上と安全に利用できる道路に整備された。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		改良工事完了箇所	箇所	2	4	0	値が大きいほど良い	効果が下がった
		側溝工事完了箇所	箇所	2	0	2	値が大きいほど良い	効果が上がった
		舗装工事完了箇所	箇所			3	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R5とR4の指標増減）	効果が上がった指標数 2指標		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数 0指標		○		
	効果が下がった指標数 1指標				
	指標全体				効果が上がった

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

道路整備は市民生活の基盤を成すものであることから、市民の要望は極めて強く、事業量は依然として膨大なものである。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年6月28日

事業名	土地開発基金用地買戻事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	道路河川課			款	8	新規or継続	継続事業
	係	道路建設係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	521	名称	根拠法令、条例等	目	3	義務or任意	任意的事業
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	事業開始年度	H26	実施方法	指定管理者	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり	事業終了年度		事業分類	その他内部事務事業	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	市道道路改良事業等で土地開発基金により取得した事業用地の買い戻し
------	----------------------------------

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	土地開発基金で先行取得した土地について、買戻しを行う	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		土地開発基金から買い戻した土地	m	0	2,600	1,600	1,200	800

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	総事業数：8件 買戻面積：1375.59m ²	活動指標	単位	R3	R4	R5
		買戻価格	千円	0	58,586	39,766
		事業費計	千円	0	58,586	39,766
		一般財源	千円	0	58,586	39,766
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	道路の供用開始に伴い、買戻しが完了した。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		土地開発基金から買い戻した土地	m	0	2,442	1,376	値が大きいほど良い	効果が下がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用は下がった	※10万円以上の増減により判断	効果			
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数		0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数		0指標			○
	効果が下がった指標数		1指標			
	指標全体	効果が下がった				

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

地方自治体を取り巻く財政状況は難しい状況であり、交付税の削減や税収の落ち込みなどにより、買戻しを行うための財源確保が重要な課題となっている。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年7月17日

事業名	建築基準法第42条第2項道路整備指導事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	建築指導課			建築基準法第42条第2項道路整備指導事業	款	8	新規or継続	継続事業
	係	指導係			根拠法令、条例等	項	1	市単独or国県補助	国県補助事業
政策体系	体系コード	521	名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	事業期間	開始年度	H16	実施方法	直営	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度	-	事業分類	その他市民に対する事業	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 建築基準法第42条第2項の規定により指定された道路の後退用地を整備する。 後退用地を明示するための杭を支給し、市へ後退用地無償使用承諾書を提出してもらう。 2項道路の後退用地において、寄附及び無償使用承諾が得られた土地について、面する道と整合するような整備を行う。 2項道路の後退用地部分を市に寄附した場合、測量分筆登記にかかる費用について補助を行う。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	法令に定められた道路幅員が確保されると共に道路用地として整備されることで、快適な住環境と災害に強い都市となる。
-------------------------	---

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
整備件数/(無償使用承諾書+寄付件数)	%	75.7	75.7	75.7	77.0	77.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	<ul style="list-style-type: none"> 後退用地の整備(工事請負費) 44か所 14,025,000円 後退用地分筆補助 50件 14,698,000円
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
無償使用承諾書	件	14	30	27
後退用地寄付件数	件	84	77	50
事業費計	千円	34,572	36,439	28,723
一般財源	千円	18,734	17,178	11,773
特定財源(国・県・他)	千円	15,838	19,261	16,950
(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	<p>目標値に対して半数強の整備率となったが、令和4年度より1.4ポイント増加し、過去三年より多くなった。</p> <p>また、後退用地の道路整備が増えたことにより安全安心なまちづくりに寄与している。</p>
------------------	--

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
整備件数/(無償使用承諾書+寄付件数)	%	56.1	43.0	57.1	値が大きいほど良い	R4とR5の比較

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用 (R5とR4の一般財源増減)	費用は下がった
効果 (R5とR4の指標値増減)	効果が上がった
	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 0指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※10万円以上の増減により判断

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった	○		
費用の増減無し			
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

<p>無償使用承諾書及び寄附された方から早期整備の要望があるが、物価高騰により1件当たりの工事価格が値上がりし、整備工事件数が減少傾向にある。また、土木建設工事において週休二日制が普及し始めており、工事期間確保とともに積算への影響を考慮しなければならない。</p> <p>国庫補助が要望に対し不十分な交付額となっており、整備箇所数への影響を与えている。</p>
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明	<ul style="list-style-type: none"> 国庫補助を継続して要望する 工事週休二日制を考慮して積算及び発注する
------	---

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年7月31日

事業名	街路樹維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課			款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	521	名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	道路法	事業期間	開始年度	H17	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	街路樹を良好に保つために、専門業者に業務を委託し、適正に維持管理する。 業務委託内容：剪定、除草、害虫防除等
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	街路樹が適切に管理されている。
-------------------------	-----------------

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
市民からの苦情・要望件数	箇所	-	-	-	-	-
一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	市道44路線の街路樹について、夏季に剪定、除草、害虫防除等を9件の業務委託により行った。また、市道14路線の街路樹について冬季剪定を9件の業務委託により行った。 その他、枯損木の伐採業務委託を2件実施した。
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
高木剪定	本	1,266	1,584	1,080
低木防除	m	9,664	10,004	10,041
除草	m ²	22,420	23,064	22,994
事業費計	千円	37,105	44,561	44,612
一般財源	千円	37,105	44,561	44,612
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保することを目的としており、例年どおり街路樹を計画的に維持管理することができた。
------------------	---

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
市民からの苦情・要望件数	箇所	-	9	6	値が小さいほど良い	効果が上がった
一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.4	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 1指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※10万円以上の増減により判断

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			
費用の増減無し	○		
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

市民からの苦情及び要望等については、すべて対応したことにより達成できた。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
市民からの苦情及び要望等については、速やかに対応する。

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年7月31日

事業名	橋りょう維持補修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予 算 科 目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課			款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	521	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	危険度の高い橋梁を緊急的に補修するとともに、老朽化の激しい橋梁の改築を計画的に実施し、安全かつ円滑な交通を確保する。 橋りょう数 599橋（うち木橋 4橋） 歩道橋 2橋
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市道に架かる橋梁の危険箇所の修繕を行い、危険箇所に起因する事故の発生を未然に防止する。 (修繕工事を実施した橋梁数(木橋含む)÷市道に架かる橋梁)
-------------------------	--

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
実施橋した梁数÷市道に架かる橋梁数	%	1	1	1	1	1
一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1
橋梁長寿命化計画の進捗率	%		7.7	11.5	23.1	34.6

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・道路パトロールで発見した危険箇所等と利用者からの情報提供ならびに修繕依頼を受けた危険箇所等の維持・修繕。（3箇所） ・道路構造体定期保守点検事業で要修繕と診断を受けた、橋梁小破修繕（10箇所）や老朽化した橋梁（木橋含む）の修繕工事（5箇所）等を実施した。
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
修繕工事を実施した橋梁数	橋	4	3	3
修繕工事を実施した木橋数	橋	1	0	2
事業費計	千円	11,320	6,705	16,503
一般財源	千円	11,320	6,705	16,503
特定財源（国・県・他）	千円			
(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保することを目的としており、緊急的な補修や橋梁点検し判定Ⅲとなった橋を1橋の補修を行い、橋梁長寿命化計画の進捗率を上げることができた。
------------------	--

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
実施橋した梁数÷市道に架かる橋梁数	%	0.8	0.5	0.8	値が大きいほど良い	効果が上がった
一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.4	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない
橋梁長寿命化計画の進捗率	%		3.8	15.4	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した	※10万円以上の増減により判断
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 2指標	
	効果は変わらない指標数 1指標	
	効果が下がった指標数 0指標	
	指標全体	効果が上がった

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用が下がった			
費用の増減無し			
費用が増加した	○		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

工事発注に向けた検討に時間を要したが、修繕工事等の発注が概ね予定通り達成できた。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明	工事発注に向け早期に準備を整え、着実に実施する。また、スケジュール管理を徹底し遅延した場合は見直しを実施する。
------	---

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年7月31日

事業名	橋りょう長寿命化事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課			款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	国県補助事業	
政策体系	体系コード	521	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	道路法	事業期間	開始年度	H25	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	橋りょう長寿命化修繕計画に基づいて、従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防保全的な修繕及び架け替えへと政策転換を図り、橋りょうの長寿命化並びに費用の縮減・平準化を図りつつ、地域の安全性・信頼性を確保する。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	長寿命化修繕計画をもとに、従来の事後的な修繕及び架け替えから、予防的な修繕及び計画的な架け替えへと円滑な政策転換を図る。(道路構造物定期保守点検事業の点検結果により、計画の改定が必要)
-------------------------	--

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
実施橋梁数(累計)	箇所		2	3	6	9
一般市道の改良率(改良済/総延長)	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1
橋梁長寿命化計画の進捗率	%		7.7	11.5	23.1	34.6

3. 前年度の実績(活動及び費用対効果)説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	《工事》 ・市道宮原前沢線前沢橋橋梁補修工事(秋山町) ・市道1級7号線植野89号橋橋梁補修工事(飯田町) 《委託》 ・葛和田橋(閑馬町)、高橋(飛駒町)、梅木橋(秋山町)の調査設計等業務
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
長寿命化修繕工事実施橋梁数	橋		1	2
事業費計	千円	43,901	34,969	50,083
一般財源	千円	7,062	2,587	8,543
特定財源(国・県・他)	千円	36,839	32,382	41,540
(うち受益者負担)	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	市道橋604橋について、点検し判定Ⅲとなった橋について、補修工事を行い、長寿命化を図る。 令和5年度は、2橋の補修工事を行い、橋梁長寿命化計画の進捗率を上げることができた。
------------------	---

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
実施橋梁数(累計)	箇所		1	3	値が大きいほど良い	効果が上がった
一般市道の改良率(改良済/総延長)	%	59.4	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない
橋梁長寿命化計画の進捗率	%		3.8	15.4	値が大きいほど良い	効果が上がった

↓選択して下さい

(5) 費用対効果結果(自動判定)

費用(R5とR4の一般財源増減)	費用が増加した
効果(R5とR4の指標値増減)	効果が上がった指標数 2指標
	効果は変わらない指標数 1指標
	効果が下がった指標数 0指標
	指標全体 効果が上がった

※10万円以上の増減により判断

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			
費用の増減無し			
費用が増加した	○		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

令和5年度までに計3橋の修繕工事を目標としていた中、計4橋の完了を達成できた。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討(廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど)
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し(現状維持又は現状の計画通り)

取組説明	修繕を予定している橋梁の修繕を着実に実施する。 また、今後橋梁点検結果による修繕実施箇所等の予定を見直す必要がある。
------	---

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年7月31日

事業名	市道維持補修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs 該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課			款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	521	名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	道路法	事業期間	開始年度	H17	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	交通量の増大及び車両の大型化並びに舗装の老朽化により、道路の損傷は著しいものがあり、安全かつ円滑な交通を確保するため、恒常的な業務としてきめ細かな維持補修に努める。 市道数：3,096路線 市道延長：1,156km（うち舗装済延長 916km）
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市道の危険箇所の維持補修を行い、危険箇所に因する事故の発生を未然に防止する。 (舗装打ち換えサイクルの理想値は10%)
-------------------------	--

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	-	-	-	-	-
舗装修繕工事の実施延長÷市道の舗装延長	%	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0
一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	道路パトロールで発見した危険箇所と利用者からの苦情、ならびに修繕依頼を受けた危険箇所等の維持・修繕 ・老朽化し、交通に危険がある市道の緊急的な補修、小破修繕 ・老朽化し、交通に危険がある市道の舗装の打ち換え工事 ・老朽化し、交通に危険がある市道の側溝の修繕工事
--------------------------	---

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
維持・修繕を実施した箇所数	箇所	902	714	708
舗装修繕工事の実施延長	Km	10.7	7.6	8.8
側溝修繕工事の実施延長	m	915	916	786
事業費計	千円	404,749	414,284	420,555
一般財源	千円	404,749	414,284	420,555
特定財源（国・県・他）	千円			
（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保することを目的としており、利用者からの依頼やパトロールで発見した危険箇所はおおむね対応することができた。
------------------	--

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	1,201	900	915	値が小さいほど良い	効果が下がった
舗装修繕工事の実施延長÷市道の舗装延長	%	1.2	0.8	1.0	値が大きいほど良い	効果が上がった
一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.4	59.9	59.9	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 1指標
	効果は変わらない指標数 1指標
	効果が下がった指標数 1指標
	指標全体 効果は変わらない

※10万円以上の増減により判断

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			
費用の増減無し			
費用が増加した		○	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

舗装打ち換え工事等の実施延長は増加したが、道路パトロールで発見した危険箇所や利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕は未処理が若干残った。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
道路パトロールで発見した危険箇所や利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕を速やかに処理するとともに、舗装打ち換え等の修繕工事を推進する。

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年6月28日

事業名	樹木の里親制度推進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し		
	課	道路河川課			款	8	新規or継続	継続事業		
政策体系	係	管理係	樹木の里親制度推進事業	事業期間	項	4	市単独or国県補助	市単独事業		
	体系コード	521			名称	根拠法令、条例等	目	5	義務or任意	任意的事業
	基本目標				快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	樹木の里親制度実施要領	開始年度	H17	実施方法	一部委託
	政策	2			住みやすい快適なまちづくり		終了年度		事業分類	その他市民に対する事業
施策	1	快適で質の高い住環境の整備								

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	植上町、植野町（台南）、植野町（泉）、上台町の4町会を対象に「医師会通り」の樹木の里親を募集し、平成6年度から樹木に里親の名札を掲示し、樹木の根本の除草や乾燥時の散水等の管理をお願いしている。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	緑に対する関心を深めていただき、快適な住環境を創出する。
-------------------------	------------------------------

(3) 目標値

効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
樹木の里親数	人	36	36	36	36	36

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	・4～3月 医師会通りの街路樹について里親を指定 ・6月 里親へ作業用物品（軍手・ごみ袋）の配布 ・3月 老朽化した名札の取替え
--------------------------	--

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動指標	単位	R3	R4	R5
老朽化した名札の取替数	枚	36	0	33
事業費計	千円	76	38	82
一般財源	千円	76	38	82
特定財源（国・県・他）	千円	0	0	0
（うち受益者負担）	千円	0	0	0

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	市民に指定樹木の根本の除草や散水などを行っていただくことによって、市民一人ひとりの「緑」に対する理解が深まっている。
------------------	--

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
樹木の里親数	人	36	36	36	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数 0指標 効果は変わらない指標数 1指標 効果が下がった指標数 0指標 指標全体 効果は変わらない

※10万円以上の増減により判断

		効果		
		効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用	費用は下がった			
	費用の増減無し		○	
	費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

里親の世代交代等もあり、里親である自覚がない人が増えている。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
作業用物品支給時に確認して、自覚を促していく。

仕事の振り返りシート（令和5年度実施分）

作成・更新日 令和6年7月31日

事業名	道路維持補修事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	都市建設部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	道路河川課			款	8	新規or継続	継続事業	
	係	道路維持係			項	2	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	521	名称	根拠法令、条例等	目	2	義務or任意	義務的事業	
	基本目標	5	快適により安全で安心して暮らせるまちづくり	道路法、都市計画法、地方分権一括法、労働安全衛生法、きれいなまちづくり推進条例	事業期間	開始年度	H17	実施方法	一部委託
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり		終了年度		事業分類	施設維持管理事業	
	施策	1	快適で質の高い住環境の整備						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

（1）事業概要

事業概要	市道及び認定外道路の除草、除雪及び清掃等や破損箇所の補修作業に必要な機械経費等の経常経費
------	--

（2）目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市道及び認定外道路の危険箇所の維持補修を行い、危険箇所から起因する事故の発生を未然に防止する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所	-	-	-	-	-
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.6	59.8	59.9	60.0	60.1

（3）目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

（1）活動実績

活動実績 (R5年度に行った主な活動内容)	市道及び認定外道路の除草、除雪及び清掃等 破損箇所の補修作業に必要な機械経費等	活動指標	単位	R3	R4	R5
		維持・修繕を実施した箇所数	箇所	985	824	826
		事業費計	千円	13,280	12,285	12,816
		一般財源	千円	13,280	12,285	12,816
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

（2）活動を説明する数値データ及び事業費の推移

（3）活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	生活道路における住環境に必要な機能と安全性を確保することを目的としており、利用者からの依頼やパトロールで発見した危険箇所はおおむね対応することができた。	効果指標	単位	R3	R4	R5	指標の性質	R4とR5の比較
		苦情や修繕依頼を受けた危険箇所数	箇所		1,066	1,097	値が小さいほど良い	効果が下がった
		一般市道の改良率（改良済/総延長）	%	59.4	59.9	59.9	値が大きいくらい良い	効果は変わらない

（4）事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

（5）費用対効果結果（自動判定）

費用（R5とR4の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断	効果		
効果（R5とR4の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	1指標	費用は下がった		
	効果が下がった指標数	1指標	費用の増減無し		
	指標全体	効果が下がった	費用が増加した		○

4. 次年度に向けた検討

（1）令和5年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

道路パトロールで発見した危険箇所や利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕は、未処理が若干残ったため達成できなかった。

（2）上記反省点及び課題を踏まえた、令和6年度及び令和7年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明	道路パトロールで発見した危険箇所や利用者からの苦情や修繕依頼を受けた危険箇所の小規模な修繕を速やかに処理する。
------	---